

目 次

1. はじめに
2. Chinese Writer とワードパッド
3. 中国語の入力モードと変換
4. 入力ミスの訂正
5. 声調付きピンイン変換
6. 読みのわからない中国語の入力
7. 英数字・ひらがな・カタカナの入力
8. 辞書編集による単語の登録と削除
9. 日中・中日辞書引き機能
10. 双ピン入力の方法
11. 繁体字の入力方法
12. GB コードによる中国語文書の作成と Web ページ
13. まとめ

1. はじめに

現代中国学部では「情報基礎」という科目において、パソコンで中国語を扱うための基礎学習として、**Chinese Writer V5** (チャイニーズ・ライター・バージョン 5) による中国語入力を全員が学習します。本稿は授業で中国語入力の演習を行うために使用した教材を基にし、それに若干手を加えてまとめなおしたものです。

本稿で対象としている学生は、**Windows** の基本操作やワープロの使い方をひととおり学習し、かつ中国語を 2 ヶ月ほど学習した人です。パソコンによる中国語入力を学習するためには、少なくとも **Windows** やワープロの基本操作が自力でできること、および中国語のピンインを少し学習していることが必要です。ピンインの学習が前提として必要なのは、中国語入力ではピンインから中国語に変換する方法が主に使われるためです。

またここで取り上げる **Chinese Writer V5** という中国語入力ソフトは、ソフトウェアの基本的なしくみは日本語入力のソフトウェアとほぼ同じです。中国語はピンインで入力して漢字に変換しますが、この入力方法は日本語の場合にローマ字で入力して漢字に変換する方法と考え方は同じです。よって中国語入力を学習する前に、ローマ字かな変換による日本語の入力ができるようになっていないと、大変らくに学習することができることは言うまでもありません。

1. 2. 中国語入力のしくみ

一般的な日本のキーボードに漢字を直接入力するキーはありません。そのため「ちゅうごく」と入力し、変換操作を行うと IME (Input Method Editor) というソフトが、「ちゅうごく」に該当する漢字を探してきて画面に出力 (表示) するというようになります。これは日本語の漢字の場合も中国語の漢字の場合もほぼ同じです。

日本語版 Windows で日本語を扱うためには、かな漢字変換などの機能を持つ日本語入力システム (IME ともいう) と、Word などの日本語を表示できるアプリケーションソフトが必要です。中国語を扱う場合も同様に、ピンイン変換などの機能を持つ中国語入力システムと、中国語を表示できるアプリケーションソフトが必要になります。

中国語入力システムはいくつも開発されており、自分の好みに応じたものを購入することができます。また Microsoft からは中国語を入力できる IME が無償で配布されていますので、それを Windows2000 などでも使うこともできます。

ここでは Chinese Writer V5 を使って、中国語の扱い方を解説していきます。また中国語を表示するアプリケーションも Word, Excel, ワードパッド、メモ帳などいろいろありますが、ここでは Windows2000 とワードパッドを使って説明しており、教室の環境を前提としています。

なお、Chinese Writer V5 を自分でインストールして使用する場合は、次のような動作環境が必要になりますので、あらかじめ自分のパソコンが条件を満たしているかどうか確認が必要です。

必要な基本ソフトウェア (OS) は Windows95, Windows98, WindowsNT, Windows2000 となっており、いずれも日本語版が必要です。コンピュータ本体には、メモリが 32MB 以上、ハードディスクは 220MB 以上 (最小構成で 60MB 以上) の空き領域が必要です。またソフトが CD-ROM で提供されているため、インストールには CD-ROM ドライブが必要です。ソフトはハードディスクへインストールして使いますが、インストールプログラムが用意されていますので、インストールプログラムの指示に従って行えば特に問題はありません。

1. 3. 中国語の漢字コード

Chinese Writer V5 で使われている中国の漢字コードは、1981 年中国国家標準 (Gu ó j i ā B i ā o z h ū n) 総局が定めた「中华人民共和国 国家标准 信息 x ì n x ī 交換用 j i ā o u à n y ò n g 汉字 h à n z ì 编码 b i ā n m ā 字符集 z ì f ù j í GB2312-80) が基になっています。これは中国では一般には「GB 漢字」と呼ばれています。「GB 漢字」は全部で 6763 字が登録されていますが、そのうち使用頻度の高いものを集めたものを「第一級漢字」(第一級漢字) とし、次に使用頻度の高いものを「第二級漢字」(第二級漢字) としています (表 1)。これらに記号や特殊文字などの非漢字 (682 字) を含めて GB コードと呼んでいます。

非漢字	682 字
第一級漢字	3755 字 (使用頻度が最も高い)
第二級漢字	3008 字

中国の一般新聞や雑誌では、第 1 級漢字の使用率が 99.9% 以上であるといわれています。新聞や雑誌に出てくる 1000 字のうち、999 字は第 1 級漢字に登録されています。残りの 0.1% 以下の文字は、第 2 級漢字や、使用頻度がさらに低い地名や人名などの漢字などです。

中国語を勉強する際、第 1 級漢字を覚えれば不自由を感じなくなるといわれます。逆にかんがって第 1 級以外の漢字を勉強しても、一般に使うチャンスは非常に少なくなるといわれます。

また第 1 級漢字は日常的によく使われている文字であり、中国の人は皆読めるので、辞書の読み順で文字コードに割り当てられています。第 2 級漢字になると、中国人でも読めない人が多いので、部首画数順に割り当てられています[菅愛知大学情報処理センター

野].

中国の文字コードは、GB2312 が制定されたあと改編され、Windows95 以後はGB2312 を拡張した GBK コードが広く使われています。さらに 2001 年からはGB18030 (通称GBK2K と呼ばれる) 新しい文字コードの採用が義務付けられるようになりました[4]。この GB18030 コードはこれまでの文字コードをさらに拡張したもので、27,000 以上の漢字が登録され、全部で 150 万文字が登録できるようになっています。このなかにはチベット、モンゴル、ウイグルなどの少数民族の文字も収められています。今後中国語入力システムなどはこの新しいGB18030 コードに対応していくと思われます。

台湾の文字コードは「BIG5」と呼ばれるものが定められています。Internet Explorer などで台湾の Web ページを見る時は、この文字コードを使います。Chinese Writer でもこの「BIG5」を使って文章が書けるようになっています。

1. 4. Chinese Writer の中国語入力

Chinese Writer には 3 種類の中国語入力システムがあります。

(1) Chinese Writer V5(CW)

Chinese Writer V5(CW)を使うと、日本語 Windows の Word, ワードパッド, Excel, データベースなどいろいろなアプリケーションソフトで中国語を入力し、日本語と中国語の混在文書を作成することができます。

Chinese Writer で簡体字中国語を入力する場合は、フォント名の先頭に「GB 中国」が付いているものを、アプリケーションソフトから指定します。例えば、「GB 中語ゴシック」、「GB 中国宋朝」、「GB 中国明朝」などがあります。

同じく繁体字中国語を入力する場合は、「KG 繁体明朝」または「KG 繁体ゴシック」をアプリケーションソフトで指定します。

これらのフォントの文字コード自体はシフト JIS(SJIS) コードになっており、日本語のアプリケーションソフトで中国語を入力するために使われます。

(2) Chinese Writer V5(GB)

中国大陸へ電子メールを送信するときや中国のホームページを閲覧するときなどは、Chinese Writer V5(GB)が使えます。Chinese Writer で GB コードの中国語を入力する場合は、フォント名の先頭に「GB」が付いており、かつフォント名が全部アルファベットになっている中国語フォントをアプリケーションソフトから指定します。

文字コードは中国大陸で一般に使用されている GB(GB2312) コードになっていますので、GB コードの中国語を表示させるためには、Chinese Writer に付属しているチャイニーズパッドなどのように、GB コードに対応しているものがが必要です。

(3) Chinese Writer V5(BIG5)

台湾への電子メールの送信やホームページを閲覧するとき使います。また台湾で使用されている BIG5 コードに対応しているアプリケーションで使えます。

Chinese Writer で BIG5 コードの中国語を入力する場合は、名前が「BIG5 Mincho」「BIG5 Gothic」の中国語フォントをアプリケーションから指定します。

文字コードは台湾のBIG5 コードになっていますので、BIG5 コードの中国語を表示させるためには、上で述べた GB コードと同じような注意が必要です。

2. Chinese Writer とワードパッド

最初に Chinese Writer の入力システムに慣れるため、Windows の IME の切り換え、フォントの選択、基本的な中国語の入力方法などについて学習します。ここでは Windows に付属しているワードパッドを使って、中国語を入力するまでの手順や操作方法について説明します。

ワードパッドは簡単な文書を作成するためのもので、ワープロソフトとしての機能は限定されていますが、Word や Excel あるいは電子メールソフトなど中国語に対応したソフトなら、ワードパッド以外のソフトでも中国語を入力して表示することができます。

ワードパッドを使って中国語を入力する場合は、入力始める前に次のような操作や留意点があります。

- ① ワードパッドを起動後に中国語を入力する場合は、IME を Chinese Writer に切り換える必要がある。なお日本語を入れたいときは、MS-IME に切り換えて入力する。ワードパッド以外のアプリケーションソフトで中国語を入力したいときも同じである。
- ② ワードパッドで指定しているフォントが中国語でないときは、中国語のフォントに変更する必要がある。フォントには、「GB 中国宋朝」「GB 中国明朝」「GB 中国ゴシック」など「GB 中国」で始まるものを使う。なおフォントには縦書き用も用意されており、「@GB 中国明朝」のように「@」が付いている。
- ③ Chinese Writer で中国語を入力する場合は、基本的にはピンインの読みで入力する。中国語への変換は、スペースキーまたは変換キーを押すと、対応する中国の漢字に変換される。これは日本語のローマ字かな変換とほとんど同じである。

2. 1. Chinese Writer の起動と中国語フォントの指定方法

中国語を入力するためには、次の手順でワードパッドを起動し、IME を Chinese Writer に切り換えます。

- ① 「スタート」メニュー→「プログラム」→「アクセサリ」→「ワードパッド」の順にたどり、ワードパッドを起動する (図1)。



図1. ワードパッドの起動画面例

- ② タスクバーの右端に表示されているアイコンから、多元語インジケータをクリックし IME の選択を表示する (図2).



図2. 多言語インジケータ

- ③ IME の選択から、ここではCWの付いているところを選ぶ。使いたいChinese Writerにマウスカーソルを合わせてクリックして選択すると IME が起動する。IME の名前の横に三角のチェックマークがついているものが現在起動中のIMEである (図3)。

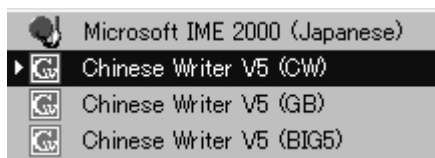


図3. Chinese Writer の起動メニュー

- ④ またはショートカットキーが設定されているときは、Alt キー+Shift キーを押すことで、Chinese Writer に切り換えることができる。日本語 → 中国語 (CW) → 中国語 (GB) → 中国語 (BIG5) → 日本語と切り換わる。
- ⑤ ここでは簡体字を入力するので、ツールバーの「簡体字/繁体字」ボタンが「簡」になっていることを確認 (図4)。

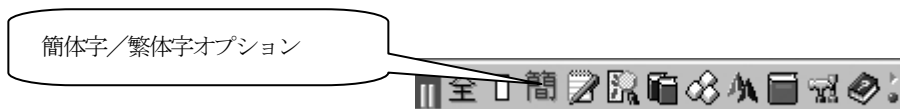


図4. 簡体字/繁体字オプションの切り換え

- ⑥ ワードパッドのフォントのプルダウンメニューから、使用する中国語のフォントを選択する。ここでは「GB 中国

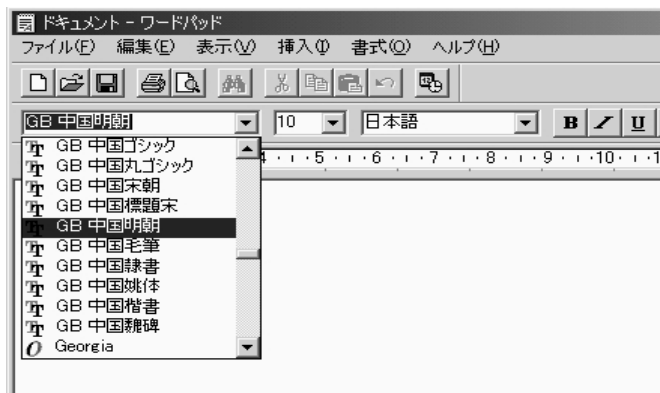


図5. ワードパッドの中国語フォントの選択

明朝（日本語）」に設定した例を示す（図5）。先頭のTはフォントの種類がTrueType フォントであることを示している。TrueType フォントを使うと、画面表示と印刷に同じフォントが使われる。画面表示に使われるスクリーンフォントが、印刷される文字とほぼ同じイメージで画面に表示される。

- ⑦ フォントの選び方は、リストボックス内でスクロールバーを使って上下に移動し、マウスをリストボックスの中に入れてクリックし、選択する。フォントの表示ボックスが、「GB 中国明朝」になったことを確認する。
- ⑧ Chinese Writer の左先頭が赤色の状態で、右端のボタンも赤色のとき、中国語が入力できるオン状態となる。左先頭が茶色の状態で、右端のボタンが青色のとき、入力できないオフの状態なので、右端の青色ボタンを押してオンにする（図6）。



図6. ChineseWriter のオンとオフ

- ⑨ IME セレクタを使っても Chinese Writer を起動することができる。IME セレクタでは、JIS が日本語を入力するとき、「CW」がワードパッドなどで中国語を入力するとき、「GB」は中国本土の文字コードで入力をするとき、「B5」は台湾の文字コードを入力するときを使う。多言語インジケータで入力方法を切り換えるのとはほぼ同じである。IME セレクタは Chinese Writer のユーティリティから起動する（図7）。

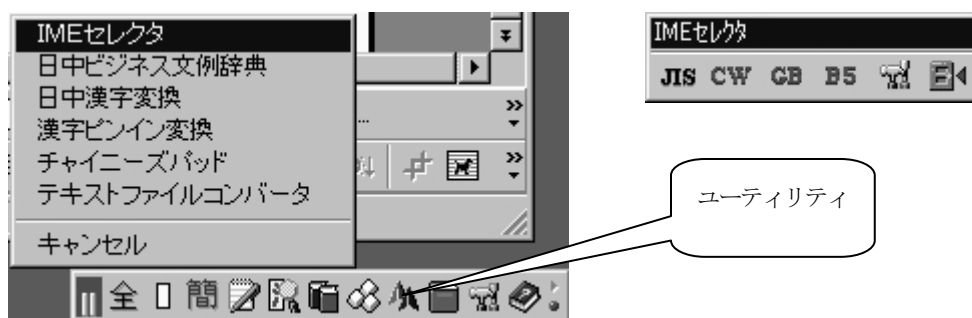


図7. ユーティリティとIMEセレクタの起動

3. 中国語の入力モードと変換

Chinese Writer には、中国大陸で利用されている簡体字を入力するために2種類の入力モード（全ピン入力、双ピン入力）があります。また台湾で使用されている繁体字の中国語を入力するために3種類の入力モード（全ピン入力、双ピン入力、注音入力）が用意されています。

全ピン入力は、キーボード上のアルファベット表記に従って、漢字のピンインを1文字ずつ入力していきます。双ピン入力は、キーボードに割り当てられた声母と韻母を交互に入力して、ピンインの1音節を入力していきます。注音入力は、キーボードに割り当てられた注音の字母を入力していきます。

また後述するように単文節変換、連文節変換、日本語（かな）から中国語への変換、声調付きピンイン変換などがあります。そのほか日本語のMS-IMEと同じように、半角変換やかな（カタカナ）変換の機能もあります。

3. 1. 入力モードの選択

入力モードの選択はChinese Writer を起動し、入力モードボタンを押して一覧を表示し、使いたいモードをマウスで選択することで行います（図8）。Chinese Writer V5 の「CW」と「GB」の入力モードは、中国大陸で使われている中国語を入力するために使われます。これらには中国語を入力する全ピン入力モードと双ピン入力モードのほか、英数字入力モード、ひらがな入力モード、カタカナ入力モード、声調付きピンイン固定入力モード、直接入力モードがあります。

また台湾の中国語を入力するために、Chinese Writer V5 に「BIG5」という入力モードが用意されています。この入力モードには、全ピン入力モード、双ピン入力モード、注音入力モード、英数字入力モード、直接入力モードがあります（図9）。



図8. 入力モードの選択 (Chinese Writer V5(CW), 中国大陸)



図9. 入力モードの選択 (Chinese Writer V5(BIG5), 台湾)

3. 1. 入力サイズ

Chinese Writer では、ピンインで入力して中国語に変換する操作が基本となります。ピンインで入力する場合、入力する文字のサイズ（全角、半角、大文字、小文字）を問いません。しかしピンインを表記したい場合などは、全角や半角を使い分けることもできます（図10）。



図 10. 入力サイズを選択

3. 2. ウムラウト

中国語のピンインでは、アルファベットのA～Zの他に、「ü」（u ウムラウト）が使用されています。しかし、「ü」の文字は日本語のキーボード上にはないため、Chinese Writer では「v」の文字を「ü」の代わりに使うようになっています。例えば、中国語の「女」（nǚ）や「略」（lüè）は、それぞれ「nv」や「lve」と入力することになります。

3. 2. 単漢字変換と変換候補

中国語で目的の単漢字を入力したいときは、ピンインで読みを入力して漢字に変換することが基本です。例えば、中国語で「电」という単漢字は、「dian」とピンインで入力し、スペースキーまたは変換キーを押して変換を行います。ここでは声調記号を付けずにそのまま入力します。

なお中国語には同音語が多数存在するため、変換キーを1回押しただけでは目的の中国語の漢字が表示されるとは限りません。その場合には、スペースキーまたは変換キーを再度押して、次の候補を表示させます。それでも目的の漢字が表示されないときは、同じように再度スペースキーまたは変換キーを押して、変換候補の一覧を表示させます。そして変換候補の一覧から目的の漢字を選択し、Enter キーを押して確定します。

また単文節変換はこの後で述べる文節変換で、正しく変換できないところを部分的に変換したいときに頻繁に使われ、中国語では基本的な変換方法になっています。

（例1）

- ① Chinese Writer を全ピン入力モードにする（図11）。



図 11. 全ピン入力モード

- ② キーボードからピンインで読みを、dian と入力すると、「d.i.a.n」と表示される。
- ③ Space キーまたは変換キーを押すと「电」と変換される。「点」などほかの漢字が表示されたときは、再度スペースキーまたは変換キーを押して「电」を表示させ、Enter キーを押して確定する（図12）。

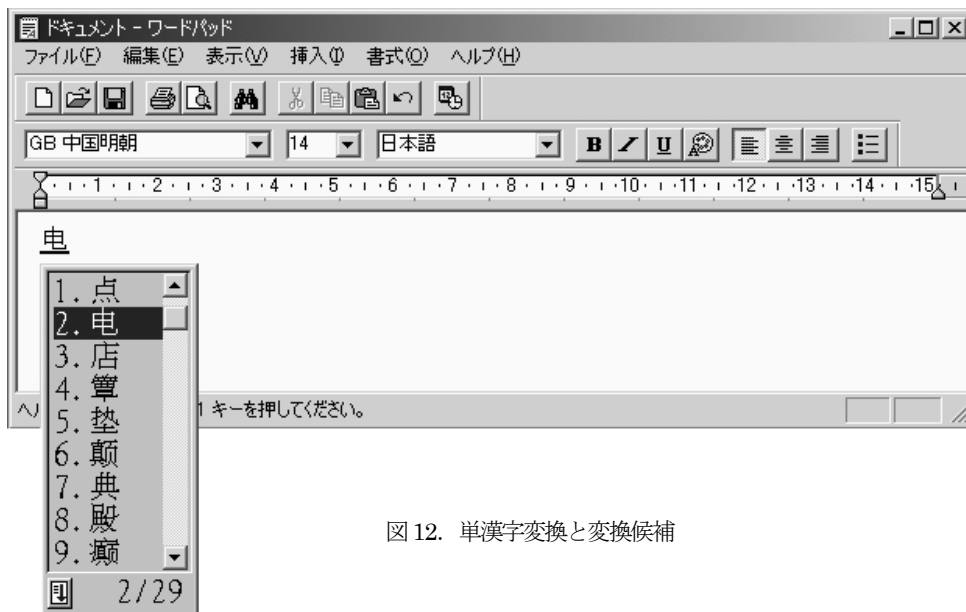


図 12. 単漢字変換と変換候補

3. 3. 変換候補のウインドウの操作

同音語が多数あるときは、変換候補を表示するウインドウを操作して目的の中国語を選択することになります。同様の機能は日本語入力システム（MS-IME など）にも備わっています。変換候補のウインドウはマウスとキーボードの両方から操作することができます。

① マウスによる操作

マウスで変換候補一覧ウインドウを操作するときは、次のように行う（図 13）。

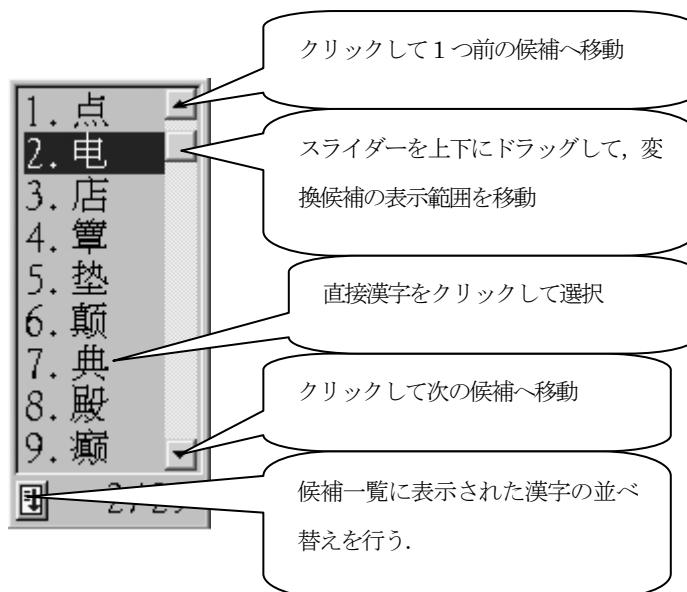


図 13. 候補一覧ウインドウの操作

② キーボードによる操作

キーボードから変換候補一覧ウインドウを操作するときは、上向き矢印キーと下向き矢印キーを使い、上下に移動して候補を選択する。

③ 変換候補の並べ替え

変換候補一覧ウインドウの左下のボタンをクリックすると、候補になっている漢字の集合に対して、並べ替えができ



図 14. 変換候補の並べ替え

るようになっている。これは変換候補の数が多いときに有効で、「標準」は辞書の登録順に並べ替えを行い、そのほか部首順、画数順、漢字のコード順に並べ替えを行うことができる（図 14）。

(例 2)

次のピンインと中国語は学生の入力練習の一部として用意したものである。単漢字変換によりこれらの中国語を画面に表示させた例を示す（図 15）。

yi 一 yi 椅 wu 五 yu 鱼 yu 雨 bu 不
pi 皮 mi 米 fu 福 da 大 di 第



図 15. 単漢字変換の例（その 1）

3. 4. 声調記号付き単漢字変換

Chinese Writer で単漢字を入力するときは、漢字の読みによっては、変換候補が数十から 100 以上になることが頻繁にあります。このような多数の変換候補が提示されると、目的の漢字を見出すことは容易なことではありません。

このようなときはピンインの読みの声調記号を付加して、変換候補を絞り込むと、比較的容易に候補の漢字を表示させることができます。

愛知大学情報処理センター

せることができます。

Chinese Writer では、ピンインの後に声調記号 (0~4) を付加することによって、声調付きピンインを表現しています。変換候補が多数の場合は、単漢字に声調を付加することによって候補となる漢字を絞り込み、変換効率を向上させることができます。

例えば Chinese Writer を全ピンまたは英数字モードにして、ma と声調記号なしで入力すると、18 の変換候補が表示されますが、ma0 と声調記号を付加して変換すると、3 つの候補まで絞り込むことができます (表 2)。

声調	声調記号	入力	候補
なし		ma	骂, 码, 妈, 麻, 玛, 蚂, 马など 18
轻声	0	ma0	么, 嘛, 吗
第 1 声 mā	1	ma1	麻, 妈, 蚂, 摩, 抹, 嬷
第 2 声 má	2	ma2	麻, 吗, 蟆
第 3 声 mǎ	3	ma3	玛, 码, 蚂, 马, 吗, 蚂
第 4 声 mà	4	ma4	蚂, 骂, 唌, 杓

(例 1)

次のピンインと中国語は学生の入力練習の一部として用意したものである。単漢字変換によりこれらの中国語を画面に表示させた例を示す (図 16)。

sì 四 sè 色 cài 菜 mǎi 买 gěi 给 měi 每
 shǎo 少 dōu 都 ròu 肉 jiā 家 xià 下 bié 别
 xiě 写 guā 瓜 huā 花 duō 多 guó 国 xué 学



図 16. 単漢字変換の例 (その 2)

3. 5. 単文節変換

単文節変換は、中国語の日常的な用語や専門用語、あるいは固有名詞などの単語 (熟語) に変換する機能です。基本

的な変換操作は単漢字変換と同じですが、単語（熟語）のピンインを全部一度に入力して変換を行う点が異なります。

(例1)

- ① Chinese Writer を全ピン入力モードにする。
- ② 単語（熟語）の読みを全部入力する。例えば「kāfēi」と入力する。候補が多そうなときは、声調記号も付加する。
- ③ スペースキーまた変換キーを押し、目的の変換候補である「咖啡」を選ぶ。
- ④ Enter キーを押して確定する。

(例2)

次のピンインと中国語は学生の入力練習の一部として用意したものである。単文節変換によりこれらの中国語を画面に表示させた例を示す（図17）。

kāfēi 咖啡	yīnyuè 音乐	píjiǔ 啤酒	zázhì 杂志	péngyou 朋友
lǚxíng 旅行	yǔsǎn 雨伞	mǎlù 马路	jiànkāng 健康	dìtú 地图
zhàopiàn 照片	diànshì 电视	liúxué 留学	gōngzuò 工作	qìchē 汽车

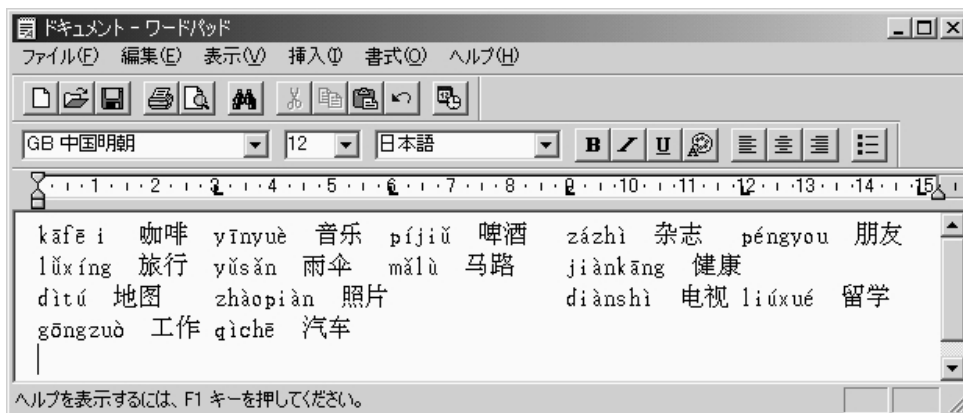


図 17. 単文節変換の入力例

3. 6. 連文節変換

連文節変換では、入力した文字列を自動的に文節に分割して変換が行われます。Chinese Writer では1度に入力できるピンインの長さは64文字までとなっています。

入力されたピンインの読みは、Chinese Writer が自動的に判断して、文節（意味が理解できる最小の文字列）に分割し、一括して変換が行われます。変換の基本的な操作は、変換したい連文節のピンインを一度に入力する以外は、単漢字変換や単語（熟語）変換と同じです。

また、変換しようとする連文節が長くなったり、同音語が多い中国語を変換しようとしたりすると、最初の変換ではすべての変換が正しい語に変換できないことがたびたびあります。多くの場合は、最初の変換後に正しく変換されていない文節に移動して、その部分だけ再度変換することになります。

単文節変換と連文節変換のどちらがよいということははっきり言えません。変換したい文をその場で判断して決めざるをえません。慣れるまでは入力しやすい方法を選ぶようにします。

(例1)

- ① Chinese Writer を全ピン入力モードにする。
- ② キーボードからピンインで読みを、「n i h a o ! h u a n y i n g n i m e n 。」のように入力すると、画面には「n.i.h.a.o.!h.u.a.n.y.i.n.g.n.i.m.e.n.。」と表示される。
- ③ スペースキーまた変換キーを押すと、「你好！欢迎你们。」と変換される。
- ④ Enter キーを押すと確定される。

(例2)

- ① 「w.o.h.e.c.h.a.。」あるいは「t a x i h u a n n i .」と入力。
- ② スペースキーまた変換キーを押すと、「我喝茶。」あるいは「他喜欢你。」と変換される (図18)。



図 18. 連文節変換による入力例 (その1)

4. 入力ミスの訂正

上の連文節変換の例は、すべての文節が一度で中国語に正しく変換された例です。いつもこのように正しく変換されるとは限りません。ピンインで読みを長く入れれば入れるほど、正しく変換される確率は低くなっていきます。

そこで正しく変換されない単漢字や文節を移動し、再度正しい漢字に変換することが必要になります。以下の訂正の例では、ピンインの中の | はカーソルの位置を示します。

4. 1. 入力中の訂正

例として、nimaohao を nimenhao に訂正します。ピンインの中の | はカーソルを示します。

(例)

- ① n i m a o h a o | と入力した。
- ② ←キーでカーソルを移動して、n i m a o | h a o とする。
- ③ 間違って入力した文字を、BackSpace キーを押して削除し、n i m | h a o とする。

- ④ 正しくピンインを入力し、n i m e n | h a o とする。
- ⑤ →キーで文末へカーソルを移動する。

4. 2. 変換中の訂正

「你门高」と入力し、まだ確定していない場合の訂正を示します。

(例)

- ① 「你门高」と入力した。
- ② Shift キーを押しながら Esc キーを押して、変換状態を入力状態へ戻す。
- ③ n i m e n g a o | とする。
- ④ 間違えて入力した文字は、BackSpace キーを押して削除し、n i m e n | a o とする。
- ⑤ n i m e n h a o | と正しくピンインを入れる。
- ⑥ →キーで文末へカーソルを戻し、スペースキーで再度変換する。

4. 3. 同音語に変換された場合の訂正

同音語に変換された誤りは、矢印キー (→, ←) で文節間を移動して再変換を行います。

(例)

- ① 「w o z a i c h i f a n o . 」 と入力してみる。
- ② 「 我 载 吃 饭 . . 」 の「载」ように一度では正しく変換されない文字がある。
- ③ →キーを1回押して、「载」の文字を反転させる。
- ④ スペースキーまたは変換キーを押して、「载」の文字を「在」に単漢字で変換する。

4. 4. 不適切な文節の区切りで変換された場合

Chinese Writer でも、連文節変換を行った場合、入力したピンインによっては、誤った文節の区切りで変換が行われることがしばしばあります。このようなときは、矢印キー (→, ←) を押して、文節の長さを適切な中国語に当てはまるように変更して、再度変換します。

(例)

- ① 「c h a n g j i a n g d a q i a o 」 と入力して変換してみる。
- ② 「长江大气阿哦」と変換される。
- ③ →キーを押して文節を「大气阿哦」に移動する。
- ④ Shift キーを押しながら、→キーを押して文節の切れ目を最後に移動する。
- ⑤ 长 江 d a q i a o | とする。
- ⑥ スペースキーまたは変換キーを押すと「长 江 大 桥」と変換される。

4. 5. 連文節変換の入力練習

次のピンインと中国語は学生の入力練習の一部として用意したものである。連文節変換によりこれらの中国語を画面
愛知大学情報処理センター

に表示させた例を示す (図 19) .

Wǒ de zìxíngchē	我的自行车。	Tā de dōngxi	他的东西。
Hǎokàn de yīfu	好看的衣服。	Dài yǎnjìng de rén	戴眼镜的人。
Wǒ māma	我妈妈。	Nǐ jiā	你家。
Nǐ chàng gē	你唱歌。		
Tā lái kàn wǒ	他来看我。		
Tā gěi wǒ zhè ge	他给我这个。		
Tāmen shì wǒ de péngyou	他们是我的朋友。		
Wǒ sòng tā zhàopiàn	我送她照片。		
Wǒ qù mǎi dōngxi	我去买东西。		

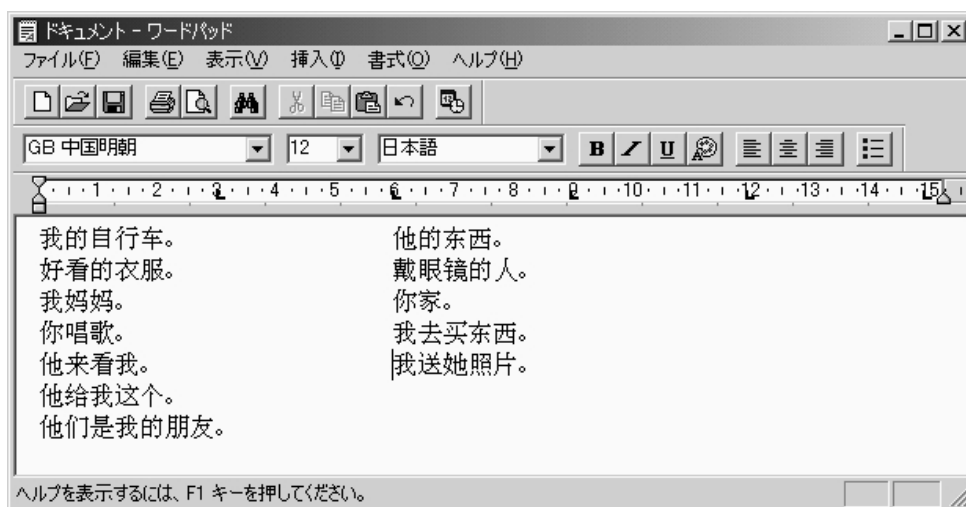


図 19. 連文節変換による入力例 (その 2)

5. 声調付きピンイン変換

Chinese Writer には、漢字の読みをピンインで表示するため、入力したピンインを声調記号付きのピンインに変換する機能があります。

声調記号付きの単漢字変換では、m a 0 のようにピンインの後ろに声調記号を付加することによって、変換候補の数を絞り込む操作を行いました。ここでは漢字に変換するのではなく、声調記号が付いたピンインに変換します。

(例 1)

- ① Chinese Writer を声調付きピンイン固定入力モードにする。
- ② キーボードからピンインで読みと声調記号を入力する。
- ③ n i 3 と入力すると画面には、n ĭ (すべて小文字) と表示される。
- ④ さらにスペースキーを押すと、N Ĩ (先頭だけ大文字) に変換される。

- ⑤ さらにスペースキーを押すと、Nǐ（すべて大文字）に変換される。
- ⑥ 同様にh a o 3と入力すると画面には、hǎo（すべて小文字）と表示される。
- ⑦ 必要に応じてスペースキーを押し、大文字小文字を使い分ける。
- ⑧ Enter を押すと確定される。

またF5 キーを押しても、声調記号付きのピンインに変換することができます。F5 キーを押して声調記号付きピンインに変換した後でも、確定する前なら漢字に変換することもできます。

(例2)

- ① Chinese Writer を全ピン入力モードにする。
- ② キーボードからピンインで読みと声調記号を入力する。
- ③ n i 3 h a o 3と入力すると画面には、n i . 3 h a . o . 3と表示される。
- ④ F5 キーを押すと、nǐhǎo（すべて小文字）と変換される。
- ⑤ さらにF5 キーを押すと、NǐHǎO（すべて大文字）に変換される。
- ⑥ さらにF5 キーを押すと、Nǐhǎo（先頭だけ大文字）に変換される。
- ⑦ Enter を押すと確定される。

5. 1. Microsoft Word とピンインの表示

Microsoft Wordにピンインを表示すると、大文字のIの上に声調記号が表示されないことがあります。これはMicrosoft Wordは元々米国で開発されたもので英語が基本になっており、Chinese Writer と相性の悪い部分があることが原因のようです。

これを避けたいときは、Word の設定を次のように変更します。「ツール」メニュー → 「オートコレクト」 → 「入力オートフォーマット」を開き、「入力中に自動で変更する項目」のうち「長音とダッシュを正しく使い分ける」のチェックを外して入力します。そうすると大文字のIの3声が入力できます。

また小文字のiを入力したいのに、どうしても大文字のIになってしまうことがあります。これはオートコレクトの小文字のiを大文字のIに自動修正する設定が機能しているためです。この場合には上と同様に、「入力中に自動で変更する項目」の設定を変更して、小文字のiを大文字のIに自動修正しないようにします。小文字のiの入力が終わり、「入力中に自動で変更する項目」の設定を元に戻せば、再度入力中の自動修正が機能するようになります。

6. 読みのわからない中国語の入力

ここまでの入力方法は、中国語の読みがピンインでわかる場合のもので、しかし、数多くある漢字の読みをピンインですべて覚えておくことは不可能に近いことです。そのため Chinese Writer には読み（ピンイン）がわからない中国語を入力する方法がいくつか用意されています。

6. 1. 日本語の読みがわかる場合の入力と変換

中国語のピンインがわからなくても漢字が日本語読みできるときは、Chinese Writer から日本語の読みを入力して変換すると、目的の中国語の漢字を入力することができます。この翻訳は Chinese Writer に組み込まれている日中辞書を検索して行われます。

例えば「てんわ」と入力して「电话」と変換することができます。

(例)

- ① Chinese Writer のツールバーから入力モードボタンをクリックして、ひらがな入力モードする。



- ② キーボードから「d e n n w a」と入力する。
- ③ 「てんわ」と表示される
- ④ スペースまたは変換キーを押して、中国語へ変換する。
- ⑤ 「电话」と表示されるので、Enter キーを押して確定する。

Chinese Writer では、かな読みで変換することができる漢字は、中国の GB コードと日本の JIS コードの両方に含まれる漢字だけです。中国語にだけ存在する漢字や日本語にだけ存在する漢字の変換はできません。

6. 2. 日本語の意味がわかる場合の入力と変換

中国語のピンインがわからなくても、日本語で意味のわかる中国語の場合は、Chinese Writer の日本語から中国語変換機能で目的の中国語を入力することができます。例えば「はてる」と入力して「饭店」に変換することができます。この翻訳も「てんわ」の例と同じように日中辞書が使われます。

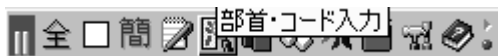
(例)

- ① Chinese Writer のツールバーから入力モードボタンをクリックして、ひらがな入力モードする。



- ② キーボードから「h o t e r u」入力する。
- ③ 「はてる」と表示される
- ④ スペースまたは変換キーを押して、中国語へ変換する。
- ⑤ 「饭店」と表示されるので、Enter キーを押して確定する。

6. 3. 部首・コード入力



Chinese Writer には、漢字の読みがわからないときや記号や特殊文字などの非漢字を入力するために、部首入力とコード入力の機能が備わっています。図 20 と図 21 は Chinese Writer の部首・コード入力のツールバーのボタンを押してウインドウを開いたところです。図 20 は部首入力の画面、図 21 はコード入力の画面になっています。

(1) 部首入力

読みがわからなくても、漢字の部首がわかっている場合があります。このようなときは部首入力を利用して入力したり、漢字の読みや声調を調べたりすることができます。

例えば図 20 のように「現」を入力するときは次のように操作します。

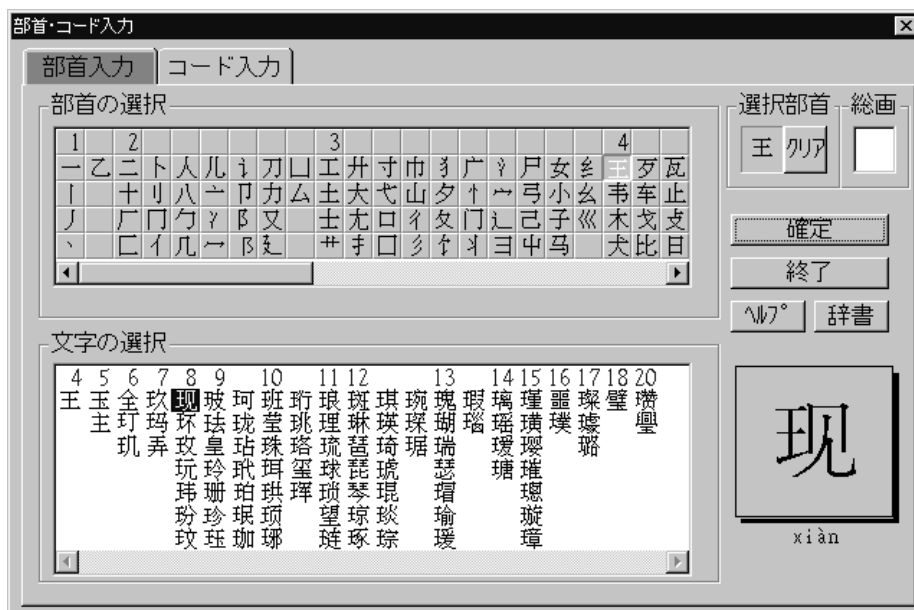


図 20. 部首入力画面

(例)

- ① 「現」の部首である「王」は4画なので、4画の部首の先頭にある「王」をマウスでクリックする。
- ② 次に画面の下半分に「文字の選択」が表示されるので、「現」は8画なので、8画のところを探す。
- ③ 「現」の上をマウスでクリックすると、画面左の下に漢字と四声の付いたピンインが表示される。
- ④ 文書中に入力したいときは、「文字の選択」で漢字をダブルクリックするか、「確定」ボタンを押すとカーソルの位置に入力される。

(2) コード入力

中国語フォントに含まれる記号や特殊文字などの非漢字は、コード入力を使って入力することができます。

Chinese Writer の簡体字コード表は、次の表 3 のように 1 区から 87 区までの間に、漢字が区分されています。1~13 区は記号と特殊文字などの非漢字になっており、16~55 区は読み順に並べられた第一級漢字、また 56~87 区は部首画
愛知大学情報処理センター

数順に並べられた第二級漢字が収められています（表3）。

1～13 区	非漢字（記号と特殊文字）
16～55 区	第一級漢字（3755 字） 読み順
56～87 区	第二級漢字（3008 字） 部首画数順

例えば、郵便番号を現す記号「〒」は、上位バイトが2（02）で、「文字の選択」から文字を選択すると、下位バイト（文字の番号）が09になり、画面右上のコードの欄に0209と出て、コード番号がわかります（図21）。

「〒」の探し方と文書中への入力は、次のようにします。

（例）

- ① 上位バイトの選択ボタンから非漢字の区のひとつである2（02）をクリックする（「〒」は特殊文字で非漢字なので、1区から13区の間にあるはず）。
- ② 次に「文字の選択」に表示された中から9番め（先頭は0から始まる）の「〒」をクリックする。
- ③ 「〒」をダブルクリックするか「確定」ボタンを押すと、ワードパッドのカーソルの位置に挿入される。

Chinese Writer のマニュアルに添付されている「簡体字コード表」を見ると、漢字のコードが表記してありますので、それを見ても漢字コードを調べて入力することができます。しかし文章を書きながら漢字コードを調べ、コード入力で漢字を出すというのは、ほとんど現実的な使い方ではないと思います。コード入力で漢字を入力するのは、特殊な場合に限られます。

なお台湾の文字コードはChinese Writer をBIG5に切り替えてから、部首・コード入力を起動すると見られます。



図21. コード入力画面

6. 4. 手書き入力



最近の手書き入力は文字の認識率が高まり、読めない漢字の入力やピンインを調べることに十分使えます。手書き入力はマウスを使って中国語の漢字を描いて入力し、描いた文字のイメージから該当する文字をシステムが認識して表示し、さらに認識した文字を入力したり、ピンインを表示したりする機能です。漢字の認識は簡体字と繁体字の両方ができます。

Chinese Writer のツールバーから「手書き入力」ボタンをクリックすると、中国語手書き入力が起動します。手書き入力には、タブレットとペンを使うこともできますが、ここではマウスを使う方法を簡単に紹介しておきます(図22)。



図 22. 中国語手書き入力の画面

- ① 入力エリアに、マウスを使って中国語を書く。
- ② 書き終わったら、「認識」ボタンを押すと、該当する漢字が「第1候補」と「その他の候補」に表示される。
- ③ 中国語を文書中に入力するときは、表示された中国語の上をマウスでクリックする。
- ④ 書き間違えたため戻りたいときは「戻す」ボタンを押すと、1画前の状態に戻る。
- ⑤ 新たに別な文字を認識させたいときは、「消去」ボタンを押してクリアしてから行う。
- ⑥ 候補の中国語の上にマウスカーソルをのせると、ピンインが表示される。

7. 英数字・ひらがな・カタカナの入力

Chinese Writer では、中国語の漢字やピンインを入力できるだけでなく、英数字や日本語のひらがな、カタカナ、または非漢字も入力することができます。Chinese Writer の CW と GB の入力モードでは、英数字入力モード、ひらがな入力モード、カタカナ入力モード、直接入力モードというように入力モードの切り替えができます。フォントも中国語のフォントがそのまま表示されます。直接入力モードではキーボードの英数字がそのまま入力できます。また BIG5 の入力

モードには、ひらがなとカタカナの入力モードはありません。

① 英数字入力モード



中国語の読みをピンインで入力する場合はローマ字で行いましたが、Chinese Writer では英数字入力モードに設定し、ローマ字や数字を入力した状態でEnter キーを押すと、そのまま英数字として確定されます。例えば、「x i e x i e」と入力してEnter キーを押せば、そのまま英字として確定されます。

② ひらがな入力モード



Chinese Writer の入力モードで「あ」を表示し、ひらがな入力モードにします。この状態でひらがな入力を行うことができます。例えば「h i r u g o h a n n」とキーボードから入力すると、画面には「ひるごはん」と表示される。Enter キーを押すとそのまま確定され、スペースキーを押すと日本語の漢字に変換されます。

③ カタカナ入力モード



Chinese Writer のカタカナ入力モードは、「ア」が表示された状態です。この状態では、「umi」とキーボードを押すと「ウミ」と画面には表示されます。Enter キーを押すとそのまま確定されます。

8. 辞書編集による単語の登録と削除



辞書編集の機能を使うと、辞書に登録されていない文字を自分で登録して使うことができます。日本語のIME と同じように、Chinese writer にも辞書登録の機能があります。Chinese writer では「辞書編集」と呼んでいます。

Chinese Writer で使用しているシステム辞書（一般にChnwin.dic などのようにdic と拡張子の付けられたファイル）にも、利用頻度の高い単語があらかじめ登録されています。しかし、専門的な用語や地名・人名などについてはシステム辞書に登録されていない単語もあります。

このような場合には、日本語IME と同じように辞書登録の機能を利用して、ユーザが必要とする単語をChinese Writer のシステム辞書へ登録して、ワードパッドなどのアプリケーションで利用することができます（図23）。

また、登録した単語や既に辞書ファイルにある単語の中で不要になった単語を削除することもできます（図24）。単語の削除は、ディスクに余裕がある限り行わなくてもかまいません。しかし漢字を間違えて登録してしまったときなどは削除しなければなりません。登録の手順は次のように行います。

(例)

- ① Chinese Writer のIME から「辞書編集」のボタンをクリックする。図23のような辞書編集のダイアログボックスが表示される。
- ② 読みを入れるテキストボックスに、登録する単語の読みをピンインで入れる。読みのピンインはローマ字の小文字で入れる。

- ③ 単語を入れるテキストボックスに、登録する単語を漢字で入れる。熟語が出ないときは単漢字変換を使う。



図 23. 辞書編集の登録



図 24. 辞書編集の一覧と削除

9. 日中・中日辞書引き機能



Chinese Writer には、日本語に対応する中国語や用例および意味などを、辞書を検索して表示する「日中・中日辞書引き」という機能が備わっています。この機能を利用すると、ピンインの読みの分からない中国語を、日本語から入力することができます。

日中・中日辞書を呼び出すときは、Chinese Writer のツールバーから日中・中日辞書アイコンをクリックします (図 25) 。日中・中日辞書を起動したあと、日中辞書を使うときは MS-IME が、中日辞書を使うときは Chinese Writer がそれぞれ起動します。それぞれの IME が起動しないときは自分で起動させます。

9. 1. 基本的な使い方

辞書の中に該当する見出し語があるかどうかを調べるときは、「検索文字列」というテキストボックスに見出し語を入力して行います。「検索文字列」に検索したい日本語の見出し語を入力し、辞書順検索というボタンをクリックするか、インデックス順検索というボタンをクリックすると検索します。

「検索文字列」の左にある三角印のボタンをクリックすると、今まで検索を行った文字列の検索履歴が一覧表示されます。この検索履歴に表示された文字列は選択して、再度見出し語の検索に利用することができます。履歴は最大で 1000 文字列まで保存され、これを超えると古い順に削除されます。

ここでは日本語の「ばそこん」に該当する中国語を検索する例を使って操作方法を説明します。

(例)

- ① 「日中・中日辞書引き」を起動し、MS-IME を使って日中辞書引きの「検索文字列」というテキストボックスに「ばそこん」と入力して、辞書順検索またはインデックス検索を押す。
- ② あるいは文書作成をしている最中に辞書を使いたくなることがしばしばあるが、すでに確定した部分を対象にしたいときは、マウスでドラッグして反転させて選択し、「日中辞書引き」を起動する。
- ③ 「日中辞書引き」プログラムは、ワードパッドで入力した「ばそこん」という言葉に対応する中国語を検索し、「日中辞書引き」を起動すると同時に、「見出し語」リストボックスには日本語を、「辞書内容」には中国語の表現をそれぞれ表示する。「辞書内容」には、日本語が黒色 (初期値)、中国語は青色 (初期値) で表示される。
- ④ 辞書内容から入力を行いたい文字列 (ここでは「电脑」を選ぶ) をドラッグして選択する。
- ⑤ 「辞書内容」で選択された文字列を Chinese Writer V5 (CW) のコードでクリップボードへ転送したいときは、「CW」と表示されたボタンをクリックする。



- ⑥ 「辞書内容」で選択された文字列を GB コードでクリップボードへ転送したいときは、「GB」と表示されたボタンをクリックする。



- ⑦ 「編集」メニューから「貼り付け」を実行すると、「辞書内容」で選択されている文字列 (この例では「电脑」) がワードパッドのカーソルの位置へ挿入される。



図 25. 日中辞書引きを起動し「电脑」を選択した画面

9. 2. 日中・中日辞書ビュー



日中・中日辞書ビューは、日中・中日辞書によって辞書引きした語句の語積を表示するための機能です (図 26) . この機能は簡体字に対応した機能になっており、BIG5 入力モードでは使えません。



図 26. 日中・中日辞書ビュー（「ぼそこん」と入力して起動）

日中・中日辞書ビューを起動するときは、文書を作成中に、未確定文字のある状態で f4 キーを押します。またはツールバーの日中・中日辞書ボタンをクリックします。そうすると「日中辞書」または「中日辞書」を検索して辞書ビューを表示します。未確定文字が「ひらがな」または「カタカナ」の場合は「日中辞書」が使われ、それ以外の場合は「中
愛知大学情報処理センター

日辞書」を使用して検索します。

表示された見出し語や語釈の部分は、コピーやペースト機能を使って、作成中の文書の中に取り込むことができます。

9. 3. 日中・中日辞書ビューのツールバーと機能

日中・中日辞書ビューのツールバーと機能の概略には次のようなものがあります（図27）。

①コピーボタン（①のボタン）

マウスのドラッグで範囲指定してコピーボタンをクリックすると、範囲指定した内容をクリップボードにコピーする。

②日中・中日辞書切替ボタン（②のボタン）

「ひらがな」または「カタカナ」で入力して中国語に変換した場合は、元の日本語から日中辞書を検索するか、中国語から中日辞書を検索するかを切り替える。

③検索ボタン（③のボタン）

マウスのドラッグで範囲指定してこのボタンをクリックした場合は、範囲指定した内容を使用して、日中・中日辞書を検索する。日本語を範囲指定したときは日中辞書を、中国語が範囲指定したときは中日辞書を検索する。

④戻るボタン（④のボタン）

戻るボタンを押すと、ひとつ前の検索結果の表示に戻る。

⑤進むボタン（⑤のボタン）

戻るボタンで表示したひとつ前の検索結果に戻り、戻るボタンの逆に動く。

⑥拡大ボタン（⑥のボタン）

表示に使われているフォントを拡大する。

⑦縮小ボタン（⑦のボタン）

表示に使われているフォントを縮小する。

⑧ウインドウ固定ボタン（⑧のボタン）

ウインドウ固定ボタンでは、ウインドウの固定状態を次のように切り替えることができる。

* 非固定状態

候補ウインドウが閉じられるか未確定文字がなくなると、辞書ビューは自動的に終了しウインドウが閉じる。

* 固定状態

終了ボタンが押されるまで、辞書ビューが終了せず、ウインドウは閉じない。

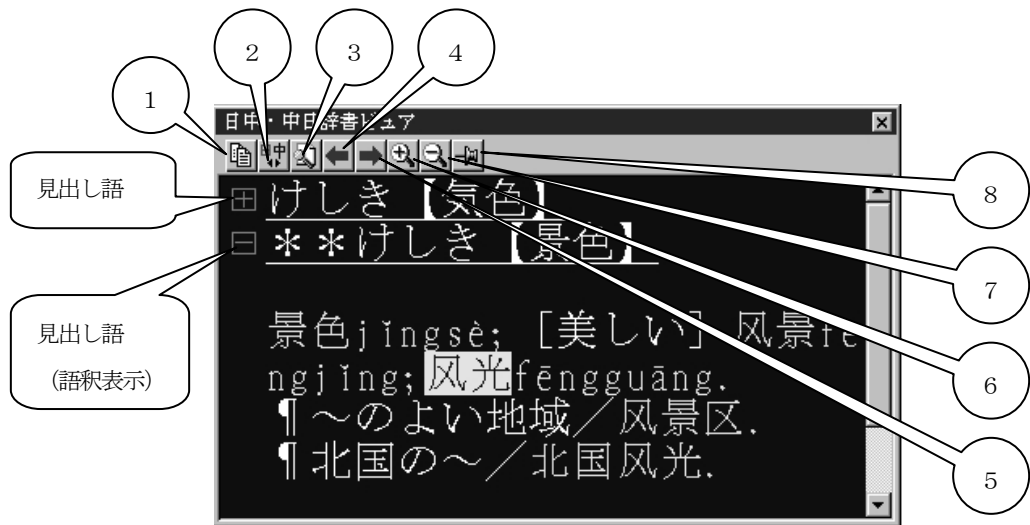


図27. 日中・中日辞書ビューアのツールバー

10. 双ピン入力の方法

Chinese Writer のピンイン入力には、全ピン入力と双ピン入力の2つの入力モードがあります。

中国語の声母は、音節の先頭に来る子音のことであり、韻母は音節中の声母を除いた部分であり、その中には必ず母音が含まれます。

双ピン入力では、1つのキーボードに複数の韻母の文字列を配置し、声母 → 韻母 → 声母と順に切り替えて入力します。この入力方法では声母と韻母の使い分けを行いながら、キーボードの打鍵回数を少なくする工夫が取り入れられています。全ピン入力モードと双ピン入力には次のような特徴があります。

(1) 全ピン入力モード

- ◆ キーボード上のアルファベット表記に従って、ピンインを1文字単位で入力する。
- ◆ キーボード上のアルファベット表記に従って入力するため、新しくキー配列を覚えなくてもできる。
- ◆ 1文字単位で入力するため、キー入力の回数が多くなる。

(2) 双ピン入力

- ◆ あらかじめキーボードに割り当てられた声母と韻母を交互に入力してピンインの1音節を入力する。
- ◆ 双ピンのキーボード配列を覚える必要がある。
- ◆ 全ピン入力よりも少ないキー入力ですむため、慣れると全ピン入力よりも速く入力することができる。

10. 1. 全ピン入力と双ピン入力の比較

例として「谢谢」を全ピン入力と双ピン入力の2つの方法で行った場合を示します。全ピン入力の場合は「x i e x i e」と全部入力しなければなりません。これに対して双ピン入力の場合は「x m x m」と入力することになります。

[例] 谢谢 x i e x i e

全ピン入力時のキー入力: x i e x i e

双ピン入力時のキー入力: x m x m

上記の例では、ピンイン x i e x i e を入力する場合、全ピン入力では6回キーを押すのに対して、双ピン入力では、4回キーを押すだけで済みます。これは「m」キーにピンインの「i e」が割り当てられているためです。

また双ピン入力では、韻母からはじまるピンインは隔音記号「O」（オー）キーを入力してから韻母を入力します。

双ピン入力では、あらかじめキーボードに割り当てられた声母と韻母のピンインを交互に入力して、ピンインの1音節を入力していきます。

声母 韻母 声母 韻母……………

キーボードの割り当ては、声母の入力時には声母のキー割り当てになり、韻母の入力時には、韻母のキー割り当てになります。声母のキー割り当てと韻母キー割り当ては以下のようになっていますが、変更も可能です（表4と5）。

表4. 声母のキー割り当て対応表

双ピン割り当て	対応キー	双ピン割り当て	対応キー	双ピン割り当て	対応キー
b	B	l	L	t	T
c	C	m	M	w	W
ch	U	n	N	x	X
f	F	p	P	y	Y
g	G	q	Q	z	Z
h	H	r	R	zh	A
j	J	s	S		
k	K	sh	I		

表5. 韻母キー割り当て対応表

双ピン割り当て	対応キー	双ピン割り当て	対応キー	双ピン割り当て	対応キー
a	A	er	,	ou	P
a i	S	i	I	u	U
a n	F	iang, uang	H	ua, ia	B
a n g	G	iao	K	uan	X
a o	D	ie	M	ui, ue	C
e	E	in, uai	L	u n	Z
ei	W	ing, ng	;	uo, o	O
en	R	iong, ong	Y	ü	V
eng	T	iu	N	ü e	Q

10. 2. 双ピンのキーボード表示



双ピン入力に慣れないうちは、双ピンのキーボード配列を見ながら練習することになります。双ピンの声母と韻母の

割り当て状態が、キーボード上でどのようになっているかを見るときは、Chinese Writer のツールバーから仮想キーボードボタンをクリックすると表示することができます(図 28)。仮想キーボードのボタンがツールバーに表示されていないときは、Chinese Writer の環境設定を開き、「表示」のタブから仮想キーボードをチェックすると表示します。



図 28. 仮想キーボードの双ピンとキーボード配列

10. 3. 双ピン入力の例

双ピン入力の具体的なしかたを、「你们好！欢迎你们。」の例で説明します。

(例1) n i m r h d ! h x y : n i m r 你们好！欢迎你们。

- ① Chinese Writer のツールバーから双ピン入力を選び、キーボード配列を表示させる。
- ② キーボードから「n i m r」と「你们」のピンインを入力する。
- ③ Space または変換キーを押して「你们」と変換する。
- ④ 「h d」[shift+1]と「好！」のピンインを入力する。
- ⑤ Space または変換キーを押して「你们好！」と変換します。
- ⑥ キーボードから「h x y :」と「欢迎」のピンインを入力する（;はセミコロン）。
- ⑦ Space または変換キーを押して「欢迎」と確定する。
- ⑧ キーボードから「n i m r」と「你们」のピンインを入力する。
- ⑨ Space または変換キーを押して「你们」と確定する。
- ⑩ 最後に「你们好！欢迎你们」となる

(例2)

次のピンインと中国語の文は学生の入力練習の一部として用意したものである。双ピン入力によりこれらの中国語を画面に表示させた例を示す(図 29)。

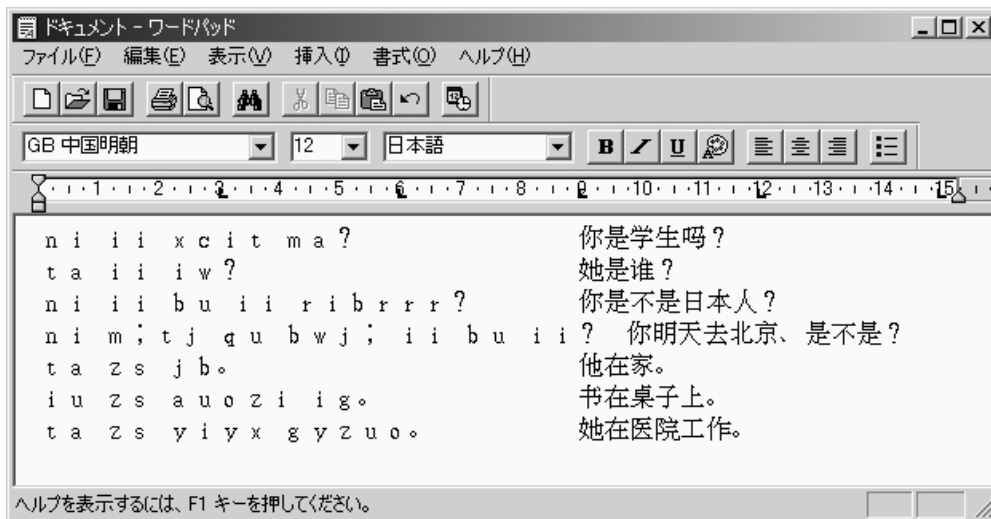


図 29. 双ピン入力によるピンインと中国語の例

ni i i x c i t m a ?	你是学生吗？
ta i i i w ?	她是谁？
ni i i b u i i r i b r r r ?	你是不是日本人？
ni m : t j q u b w j ; i i b u i i ?	你明天去北京、是不是？
ta z s j b .	他在家。
i u z s a u o z i i g .	书在桌子上。
ta z s y i y x g y z u o .	她在医院工作。（最後の。は2回押す）

1.1. 繁体字の入力方法

ここでは繁体字の中国語を入力する例を取り上げます。Chinese Writer V5(CW)とChinese Writer V5(BIG5)の両方で繁体字の入力ができます。CWの方では、簡体字/繁体字オプションによって切り換えを行い、繁体字のフォントを選択して行います。

これに対してBIG5の方は主に台湾で使われるため、常に繁体字の入力となり、簡体字/繁体字の切り換えオプションはありません。

ピンインによる繁体字の入力はCWとBIG5でも方法は同じですが、BIG5には注音入力という独特の入力方法があります。しかしピンインとは異なる注音を新たに覚えなければならないので、ここでは簡単な紹介に留めています。

1.1.1. Chinese Writer V5(CW)とKG繁体フォントによる繁体字入力

ここではChinese Writer V5(CW)とKG繁体明朝を使って、ワードパッドに入力する例を取り上げます。

- ① ワードパッドを起動する。
- ② タスクバーの右端に表示されている多言語インジケータをクリックして、IMEの一覧を表示する。
- ③ さらにChinese Writer V5(CW)を左ボタンでクリックしてIME(入力システム)を切り換える。
- ④ Chinese Writer V5(CW)の「簡体字/繁体字」ボタンをクリックし、「繁」を表示させる(図30)。

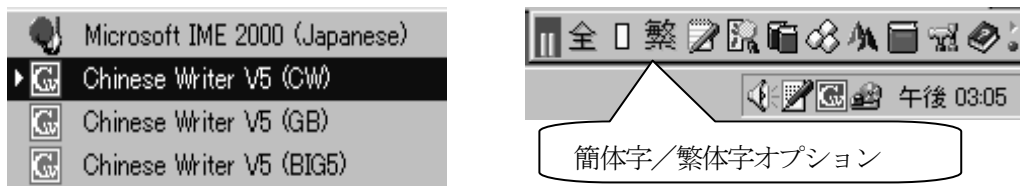


図30. Chinese Writer V5の起動メニューと簡体字/繁体字オプション

- ⑤ ワードパッドのフォントを、ここではChinese Writer V5(CW)の「KG繁体明朝(日本語)」に設定する(図31)。

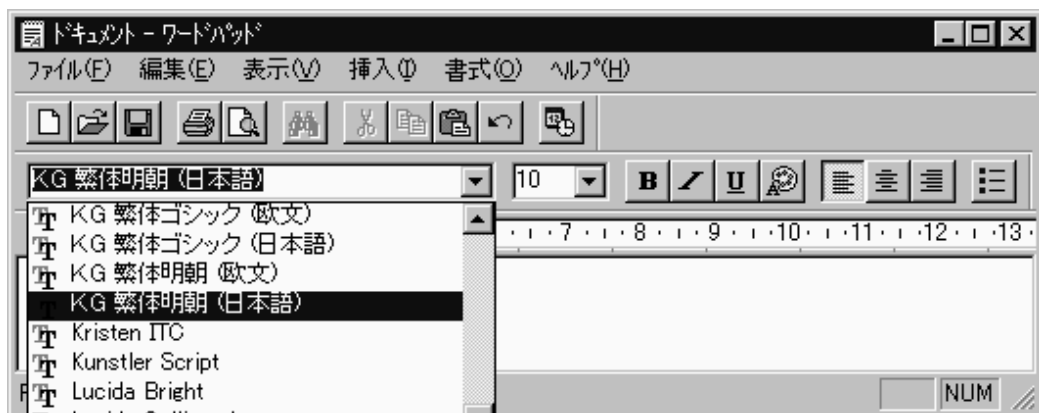


図31. ワードパッドと繁体字フォントの設定



図 33. Chinese Writer V5(BIG5)の起動メニューと注音入力モード

- ③ ワードパッドではフォントの選択を行い、「BIG5 Mincho」「BIG5 Gothic」などから中国語フォントを指定する。ここでは「BIG5 Mincho」を選んだ例を示す(図 34)。



図 34. BIG5 Mincho フォントの選択

- ④ キーボードから「中國留學」の注音に対応するピンインを入力する。注音配列では「5 J / E J I X U . V M , 」とピンインを入力する。大文字あるいは小文字でも同じである。そうすると画面には「ㄉㄨㄛˋㄌㄩˊㄒㄩㄝˊ」と注音が表示される。

キーボードからの入力	<code>5 J / E J I X U . V M ,</code>
画面への注音表示	<code>ㄉㄨㄛˋㄌㄩˊㄒㄩㄝˊ</code>

- ⑤ 次に Space キーまたは変換キーを押せば「中國留學」と繁体字の中国語に変換される。
 ⑥ 上の操作で正しく漢字が表示されたなら、Enter キーを押して確定する。

11. 4. 注音の仮想キーボード

図 35 に注音配列の仮想キーボードを示します。これは Chinese Writer V5(BIG5)の仮想キーボードから起動します。

このキーボードを使うと、注音をマウスでクリックしてそのまま入力することができます。

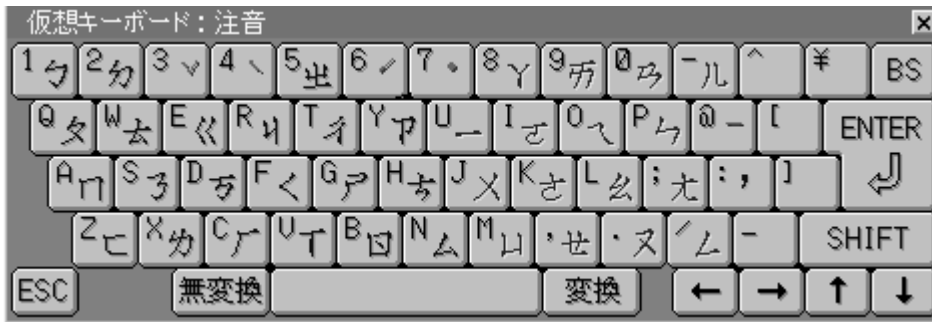


図 35. 仮想キーボードと注音入力配列

このキーボードを起動して、試しにつぎのように注音を入力してみましょう。

メシロケトロセターノロ

(キーボードでは JIAPVM, VUCOM となり 0 はゼロ)

正しく入力すれば「我們學習漢語」と繁体字の中国語に変換されます (図 36)。



図 36. 注音と繁体字の入力例

11. 3. 注音とピンインの対応規則

以下に注音とピンインの対応表を示します。基本的には注音字母とピンインは一対一に対応するようになっています。しかし e, un は 2 つの注音字母に割り当てられ、ピンインの表記が分けられていないので注意が必要です。

また注音字母で i にあたるものは、注音では縦棒で表記されていますが、コンピュータの入力では、英文字の I (アイの大文字) や l (エルの小文字) と混同しやすいため、横棒で表記されています。横棒は上の仮想キーボードでは U のキーに割り当ててあります。

注音とピンインの対応規則表は、Chinese Writer V5 ユーザーズマニュアルに詳しく記載されています。

(1) 声母

ㄅ	ㄆ	ㄇ	ㄈ	ㄉ	ㄊ	ㄋ	ㄌ	ㄍ	ㄎ	ㄏ
b	p	m	f	d	t	n	l	g	k	h

ㄐ	ㄑ	ㄒ	ㄓ	ㄔ	ㄕ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	ㄙ
j	q	x	z h	c h	s h	r	z	c	s

(2) 韻母

ㄚ	ㄛ	ㄜ	ㄝ	ㄞ	ㄟ	ㄠ	ㄡ	ㄢ	ㄣ
a	o	e	e (ie)	ai	ei	ao	ou	an	en

ㄤ	ㄥ	ㄦ
ang	eng	er

ㄨ	ㄨㄚ	ㄨㄛ	ㄨㄝ	ㄨㄞ	ㄨㄟ	ㄨㄠ	ㄨㄡ	ㄨㄢ	ㄨㄣ
i	ia	io	ie	iao	iu	ian	in	iang	ing

ㄨ	ㄨㄚ	ㄨㄛ	ㄨㄞ	ㄨㄟ	ㄨㄠ	ㄨㄡ	ㄨㄢ	ㄨㄣ
u	ua	uo	uai	ui	uan	un	uang	ong

ㄩ	ㄩㄝ	ㄩㄢ	ㄩㄣ	ㄩㄥ
v (ü)	ue	uan	un (ün)	iong

1 2. GB コードによる中国語文書の作成と Web ページ

Internet Explorer や Netscape などのインターネットブラウザに中国語を表示するためには、中国大陸では多くの場合文字コードに簡体字中国語 (GB2312) コードが使われています。電子メールの送信や Web ページを作成する場合もこの文字コードでファイルを作成すれば、中国大陸でもそのまま表示することができます。また台湾では繁体字の BIG5 コードが使われていますので、台湾向けの Web ページや電子メールは BIG5 コードで作成します。

簡体字中国語 (GB2312) で文書やファイルを作成する方法はいくつかありますが、ここではチャイニーズパッドと Chinese Writer V5(GB) を使う方法を取り上げておきます。チャイニーズパッドは、Chinese Writer V5 を購入すれば標準に添付されており、繁体字の BIG5 コードによる文書の作成などができるように対応しています。

1 2. 1. Chinese Writer V5(GB) の起動

Chinese Writer V5(GB) を起動すると、Chinese Writer V5(CW) とそっくりの中国語入力システムのツールバーが起動してきます (図 8)。

しかしツールバーの先頭の色が異なっていると、簡体字入力と繁体字入力の切り換えボタンがありません。以下に Chinese Writer V5(GB) のツールバーとユーティリティボタンを示します (図 37)。



図 37. Chinese Writer V5(GB)の起動とツールバー

1 2. 2. チャイニーズパッドの起動

チャイニーズパッドの起動は、スタートメニュー → プログラム → Chinese WriterV5 → チャイニーズパッドの順にたどり起動することができます。また Chinese Writer V5(GB)のツールバーにあるユーティリティボタンを押してポップアップメニューを開くと、そこにもチャイニーズパッドの起動メニューがあります(図 38)。

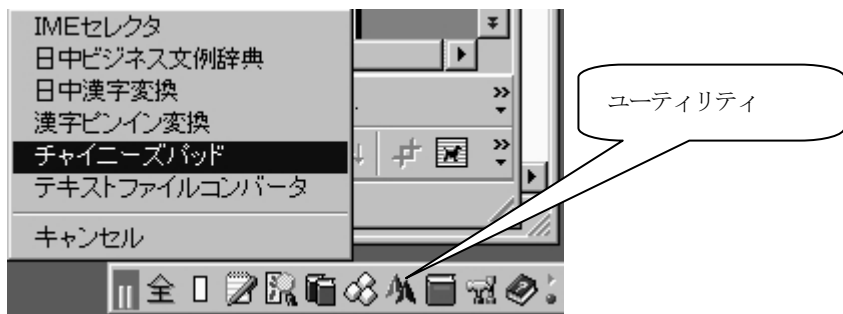


図 38. Chinese WriterV5(GB)のツールバーとユーティリティ

1 2. 3. GB コードのフォントの設定

チャイニーズパッドを起動して、設定メニューからフォントの設定を選び、GB コードのフォントを指定します。GB コードの中国語フォントは、フォント名の最初が GB で始まり、全てアルファベットのフォント名となっています。



図 39. チャイニーズパッドのフォント設定

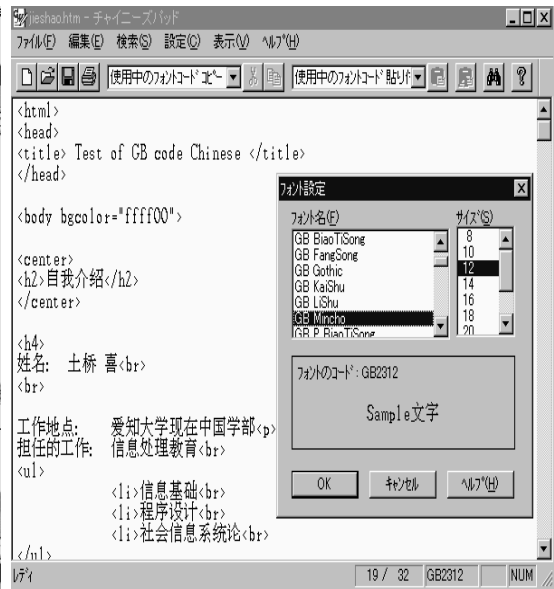


図 40. フォント設定の詳細画面

例えば「GB Mincho」「GB FangSong」などいくつも用意されています。図 39 と図 40 にフォント設定の画面を示します。

12. 4. チャイニーズパッドによる HTML ファイルの作成と保存

チャイニーズパッドは基本的にはテキストファイルを作成するものですが、HTML ファイルを作成して保存することができます。HTML ファイルを作成して保存するときは、拡張子に「.htm」または「.html」を付けます。そうすれば Internet Explorer などから簡体字中国語 (GB2312) を指定すればそのまま表示されます。

拡張子を付けて保存するときは、チャイニーズパッドのファイルメニューから名前を付けて保存を選び、自分で拡張子を付けます。なお、ここではインターネットの検索方法や HTML の書き方については、事前に学習していることを前提としていますので取り上げていません。

12. 5. ブラウザへの表示

GB コードで作成したファイルを、Internet Explorer や Netscape などのインターネットブラウザで内容を確認することができます。これらのブラウザでは中国の GB コードはそのまま表示できるので、フォントを適切に指定するだけで中国語が表示されます。

Internet Explorer では、「表示」のメニューから「エンコード」を選び、さらに「その他」の中から「簡体字中国語」を指定して表示させます (図 41)。「その他」の中には世界中で使われている主な文字コードが多数集められていますが、一度使った文字コードは「エンコード」を開いたときに表示されるようになります。

Netscape の場合は、「表示」のメニューから「文字コードセット」を選ぶと、文字コードの選択ができるようになっています。



図 41. Internet Explorer と中国語の表示

1.3. インターネットと電子メール

Chinese Writer には、中国大陸で使われている簡体字および台湾で使われている繁体字のそれぞれの中国語と同じ文字コードのフォントが付属していますので、インターネットに公開された中国語の情報検索や、電子メールの送受信ができます。これらのフォントを利用すると、Internet Explorer や Netscape などで中国大陸のほか台湾や香港のホームページの中国語をそのまま表示することができます。また Outlook Express などの電子メールソフトで文字化けしないで電子メールのやり取りができます。

1.3. 1. インターネットの中国語情報の検索

中国語の Web ページを検索するときは、まず中国語の検索エンジンを提供しているページを探して表示させます。例えばヤフーチャイナ、Netscape 中国、網上城市、Coo 台湾索引など多数あります(表6)。これらの中には簡体字版と繁体字版の両方を用意しているものもありますので、フォントはそれぞれにあわせて指定します。

表6. 中国語インターネット検索エンジン		
ヤフーチャイナ	http://cn.yahoo.com/	(簡体字版)
	http://chinese.yahoo.com/	(繁体字版)
Netscape 中国	http://home.netscape.com/zh/cn/index.html	(簡体字版)
	http://home.netscape.com/zh/tw/index.html	(繁体字版)
AOL 香港	http://aol.com.hk/zh/index.htm	(繁体字版)
Coo 台湾索引	http://search.coo.com.tw/index.phtml	(繁体字版)

これらの検索エンジンを使い、中国大陸のページは Chinese Writer V5(GB) 入力システムを起動し、台湾のページは Chinese Writer V5(BIG5) をそれぞれ起動して、検索に必要な中国語を入力します(図42)。



図42. 中国語によるインターネットの検索例

13. 2. 電子メール

中国大陸や台湾へ電子メールの送信を行うときは、日本の文字コードとは異なるものが使われているため、中国大陸や台湾で読める文字コードの中国語で、メールや文書を作成することが必要です。Chinese Writer V5(GB)入力システムでは、中国大陸で使われている簡体字を書くことができます。また同様にChinese Writer V5(BIG5)入力システムでは、台湾で使われている繁体字を書くことができますので、それぞれ送り先に合わせて入力システムを使い分けます。

ここではWindows に標準に付属している Outlook Express を使って、中国大陸へ簡体字の電子メールを作成して送信する場合の概略を説明します。

- ① まず Outlook Express を起動する。
- ② 「新しいメール」のボタンをクリックと、メールの本文を作成するメッセージウィンドウが起動する。
- ③ メッセージウィンドウで使用する文字コードを、「書式」メニューから「エンコード」を選択し、さらに簡体字中国語を選んで切り換える（図43）。
- ④ 入力システムを上で指定した言語に合わせて選択する（この場合はChinese WriterV5(GB)にするが、繁体字を選んだ場合は、Chinese WriterV5(BIG5)にする）。
- ⑤ メール宛先や件名など必要な項目を入力する。



図43. Outlook Express によるエンコードの設定

- ⑥ メッセージウインドウのフォントを、Chinese WriterV5 (GB) のフォントに変更する（ここではGB Mincho）（図 44）。
- ⑦ メール本文を中国語でメッセージウインドウに書く
- ⑧ 書き終わったら送信ボタンをクリックして送信する。

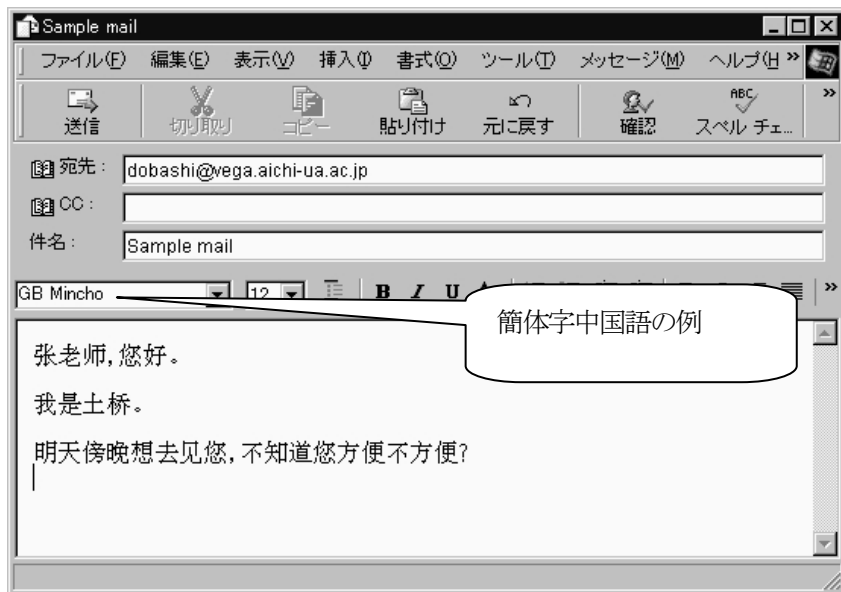


図 44. 中国語フォントの設定とメールの本文

中国から送られてきたメールが文字化けしている場合は、文字コードの設定を簡体字中国語に変更してメールの本文を表示させます。台湾と香港から受信したメールが文字化けした場合も、同様に文字コードを繁体字の中国語に変更すれば読めます。

14. まとめ

中国語をパソコンで扱おうとすると、これまでは文字コードのことを考えなければなりません。それぞれの国の文字コードが異なるため、ここで取り上げた Chinese Writer V5 のように、国が異なれば IME やフォントも別に作らなければならないわけです。Windows2000 が出るまでの OS では、同じ文書に中国語を混在させるためには、OS とは別途に IME やフォントを用意しなければならず、そのうえ動作が不安定になり勝ちでいろいろ不都合が発生していました。

この問題を解決するためには、Unicode のように、多くの国の言語に対応できる文字コードを開発することが必要でした。Windows2000 からはこの Unicode に対応するようになり、いろいろな言語の IME やフォントも標準に組み込むことができるようになりました。中台韓はもとより欧州諸語やアラビア語、サンスクリット、タイ語、ヘブライ語など多数の言語が扱えるようになってきました。さらに Word や Excel など Windows のアプリケーションでは、これらの言語を混在させた文書を作成することができるようになってきました。

しかし、Windows2000 に付属している中国語の IME (微软拼音输入法 2.0 版) を使ってみたところでは、ここで取り上

げたChinese Writer V5よりは、機能も少なく変換効率もあまりよくありません。どのIMEを使うかという問題は、使う人の好みの問題もありますが、機能が優れているかどうかは重要な問題です。本稿の中国語は全部Chinese Writer V5で書いたものですが、これより優れたIMEがあるかもしれませんし、あればすぐにでも乗り換えたいたいです。

ここでまとめた内容は、1997年から2001年までの5年間に渡り、授業で実際に行ってきたものをもとにしたもので、これまでにのべ1,000人以上の学生が本稿の内容を受講しました。本稿の内容で授業と異なる点は、実際の授業では学生に入学練習をさせるために練習課題を適宜用意しましたが、その練習課題のほとんどを割愛していることにあります。

この授業を始める前提として全部で12回の授業のうち、Windowsの基本操作およびインターネットの使い方などを3回、Wordを使った日本語入力と文書作成を3回、HTMLとWebページの作成を3回行いました。そして本稿の内容を教えるために3回使いました。

授業は1年生全員(約200人)が対象ですが、およそ半数はパソコンの操作がまだ不自由な状態で入学してきます。そのためまずWindowsの操作になれ、日本語の文章を作成できる状態にする必要があります。さらに中国語入力の応用をどこに置くかを考え、簡単なWebページの作成とインターネットの検索なども前提として教えておくことにしました。

本稿の内容は中国人留学生も受講します。中国人がワープロを使って四声とピンインの入力を行うと、自分の発音を矯正するようになるといわれています[2]。これは日本人にとっても同じことがいえると思います。自分で四声とピンインを入力することによって、発音を確かめながら入力ができるということが、発音の確認に効果があるといえます。

しかしかつて日本でワープロが出始めたころ、漢字が書けなくなるという現象が心配された時期がありました。これは日本と同じような漢字文化の中国語でも同じことがいえ、中国語ワープロを学習しても手書きで中国語の漢字を書くことは上達しないかもしれません。漢字の正確な意味は目で見ないとわからない部分があり、英語のような表音文字と漢字特有の表意文字の違いに、ワープロで文章を書くときと手で漢字が書けなくなる原因があるものと思われます。

中国語学習の初心者は、ある程度の数の漢字を覚えなければならないわけで、そのためには手書きの練習も必要ではないかと思われます。

参考文献

- [1] 大谷和博: Chinese Writer V5 ユーザーズマニュアル, 1999. 11.
- [2] 菅野 琴: 中国語入力方法の話, 朝日出版社, 192p, 1991. 4.
- [3] 漢字文献情報処理研究会: 電脳中国語—インターネットで広がる漢字の世界—, 好文出版, 287p, 1998. 11.
- [4] <http://jaet.gr.jp/gb18030/index.html>